

オアシス新聞

第十四号

呼ばれて行っても逃げ回るコジユケイ

「ちょっと来い、ちょっと来い」。山の方から誰かが呼びかける。それじやあと近づいてみると、みんな一斉に逃げ出してしまふ…。こんな体験した事ありませんか？

これはコジユケイという鳥のお話です。コジユケイはキジの仲間ですが、キジは元々日本にいた種であるのに対し、コジユケイは大正時代に中国からやってきた新参者です。狩猟対象として山に放ち、それが定着した帰化動物です。始めは東京と神奈川に放鳥されたそうですが、今では東北から九州まで、太平洋側の暖かい地域を中心に、広範囲で繁殖をしているようです。

コジユケイは雑木林や茂みの中で生活し、人目に付くところにはあまり出てきません。辺り一帯に響きわたる大きな声で鳴くため、身近にいることはわかって、狩猟鳥であるがゆえか用心深く、エサをついばみながら時々ヤブから出てきても、人の気配を感じると急いでヤブに飛び込みます。そうです、飛び立つのではなく、飛び込むのです。コジユケイはほとんど空を飛びこともなく、地上で生活しています。巢も木の上ではなく、草むらなどの地面にくぼみを作り、卵を産みます。したがって外敵も多いため、ヒナは卵からかえると数時間で親の後をついて歩きまわるようになります。そしてヒヨコから親鳥と変わらない若鶏になっても家族で群れて生活するので、コジユケイは1羽見かけた場合、周りに複数羽いる可能性が高いです。

鳴き声はよく聞こえるし、群で生活をしているはずなのに、姿はなかなか見られない。コジユケイって不思議な鳥ですね。

